

## 2023\_0711「産座からはじかれた雛（動画）」日々の理科 3261号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

シジュウカラの雛は、巣立ちの直前まで、産座（卵が産みつけられて雛が育つ窪み）から、自分で出ることは絶対にありません。しかし、混みあう産座からは、時々雛の1羽がはじき出されてしまうことがあります。

実は、巣立ちまで日数があるうちに、雛が産座から出てしまうことは、大変危険なことなのです。親鳥は、産座に入っている雛しか世話をしません。どんなに口を開けて餌をねだっても、決して与えないのです。恐らく、三産の中の「物体」だけを自分の子と認識し、産座の外の「物体」は「異物」として扱われるのでしょうか。また、一度産座から出てしまうと、雛が自力で戻ることは非常に難しいようです。

過去にも、産座から飛び出してしまった雛が、全く世話を受けられずに放置され、息絶えたことがありました。1羽だけでは、夜間に体温の保持も難しいのでしょうか。従って雛たちは、産座からはじき出されないように、常に必死になっているのです。

今日の夕方に、1羽の雛にアクシデントがあり、産座からはじき出されて、巣箱の隅に追いやられてしまいました。雛は必死に口を開けて親鳥に餌をねだりますが、やはり世話は受けられませんでした。ちょっとかわいそうですが、これも自然の仕組みなのでしょう。

(2023年7月中旬／北軽井沢の巣箱)

